

援護基金

機関紙第85号
(令和4年9月)



蟹とキノコ (photo by W. F)

公益財団法人
中国残留孤児援護基金

◆第38回理事会

令和4年度事業計画及び予算を
定例理事会で可決

令和4年2月28日に第38回理事会が決議の省略により開催され、令和4年度事業計画及び予算案が事務局原案通り承認されました。

令和4年度は次の基本方針を掲げました。
一、運営上の問題点の整理・把握に努め公益財団としての運営体制の充実に努める。
二、堅実な事業の実施
三、財政均衡に努める。

◆第39回理事会・第17回評議員会

令和3年度事業報告・決算を承認

令和4年6月7日に第39回理事会が、6月22日に第17回評議員会がそれぞれ開催され、令和3年度事業報告、決算報告及び監査報告が原案通り承認されました。

令和4年度団体助成及び介護団体支援については、団体助成委員会の審査・承認を経て、理事会で最終的に決定する方式に改めました。

佐藤嘉恭評議員（元在中華人民共和国特命全権大使）から評議員辞任のお申し出があり、本評議員会を以て退任が承認されました。

佐藤評議員は平成19年5月に最初は当財団理事に就任され、平成23年10月の公益財団法人移行以降は評議員として、財団運営に長年尽力されてまいりました。これまでのご指導・ご協力に深く感謝申し上げます。（別掲名簿を参照）



第39回理事会



第17回評議員会

◆援護基金人事◆

退任（令和4年3月31日付）

中国帰国者支援・交流センター所長事務代理

馬場 尚子

就任（令和4年4月1日付）

中国帰国者支援・交流センター所長

新津 浩平

目次

第38回理事会	表紙裏
第39回理事会	表紙裏
第17回評議員会	表紙裏
令和3年度事業報告・決算の概要	1頁
令和3年度寄附者芳名録	2頁
評議員及び役員名簿	5頁
令和4年度中国残留邦人 集団一時帰国事業に向けて	6頁
一般財団法人 岡村育英会奨学支援事業の閉幕	6頁
老後支援事業②要介護支援モデル研究事業 令和3年度介護関連活動状況調査の結果	7頁
令和4年度出版事業・帰国者の介護支援に 役立つ用語・表現集のご案内	14頁
支援・交流センター便り	17頁

（この記事は横書きにつき17頁から前へ読み進んで下さい）

令和三年度 事業報告・決算の概要

令和三年度決算事業費（経常費用）

218,841千円

寄付募集状況

令和三年度の寄附金は

41,962,148円でした。

うち約3千7百万円は遺贈資産によるご寄付でした。皆様のご支援に感謝申し上げます。

新型コロナウイルス感染症拡大の影響

令和三年度も新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、日中両国間の渡航制限や中国国内の移動制限があり、日中両国間の往来を伴う一部の事業については実施できませんでした。

公1事業（中国在住者関連事業）

事業費決算 25,877千円

1 中国養父母への扶養費の送金

帰国孤児が中国に残した養父母に対し、国が援護基金で扶養費を送金していますが、三年度は該当者がいないため、送金はありませんでした。

2 訪中説明会（座談会）

未だ中国に残留している中国残留邦人のために隔年で実施しています。新型コロナウイルス感染症拡大の影響で実施できませんでした。

3 中国関係機関訪日協議

中国残留邦人問題の円滑な進展を図るため、中国関係機関の担当者をもとに招致し意見交換等を行っています。新型コロナウイルス感染症拡大

の影響で招致できませんでした。

4 中国残留邦人等の集団一時帰国

受入事業（国の委託事業）

未だ中国に残留している中国残留邦人の集団一時帰国受入れを行っています。受入れ準備を進めましたが、新型コロナウイルス感染症拡大による影響で、受入れ延期となりました。

公2事業（帰国者関連事業）

事業費決算 184,966千円

1 中国に残る養父母のお見舞い

訪中援助

健康上の理由等で来日できない養父母を孤児が訪中して見舞うことを援助する事業ですが、新型コロナウイルス感染症拡大による渡航制限の影響もあり、申請がありませんでした。

2 中国帰国者とその家族への

就学援助

①大学、専修学校就学援助
対象となる者がいなかったため、新規貸与者はいませんでした。

※財）岡村育英会から中国残留邦人等の子弟に対する奨学金援助の申し出があり、大学生7名を推薦し、全員に給付されました。

②介護関連資格取得援助

中国語が話せる介護従事者を増やすため、介護関連資格の取得を目指しています。49名に対し4,630千円の援助を行いました。

③支援・交流センター受講者援助

全国7か所の支援・交流センターの受講生のうち中国の支援対象外の二世三世等509名分の教材費として1,182千円を援助しました。

3 団体活動助成事業

日本語教室や生活相談等の援助活動を行っている11団体に対して、1,414千円を助成しました。

4 老後支援事業

①介護事業基盤整備援助事業

中国帰国者を主な対象とする介護施設を運営しているNPO法人等10法人に対して計250万円の介護団体支援金を交付しました。

②要介護支援モデル研究事業

介護関連資格取得援助を利用して介護資格を取得した者350名に対し介護関連活動の状況調査アンケートを実施し、帰国者の介護に従事する二世三世の状況把握に努めました。

③訪問介護事業

当基金が運営していた訪問介護事業所「寿星」は平成30年度より帰国者二世三世が運営するNPO法人に任せ、当基金直営での訪問介護事業は暫時中止しています。

5 日本国籍取得支援事業

身元が判明している中国残留邦人等が、戸籍の訂正等の申請を行う場合その手続きに必要な弁護士費用等を援助していますが、該当者がいませんでした。

6 中国帰国者支援・交流センター

運営事業（国の委託事業）

首都圏中国帰国者支援・交流センターとその宿泊施設の管理、運営

（定着促進事業、日本語学習支援事業

生活相談事業、地域支援事業、交流事業、普及啓発事業、情報提供事業、地域生活支援推進事業、介護支援事業及び自立研修事業）を実施しました。

支援・交流センターとしては初となるサハリンからの樺太等永住帰国

者一世帯二名を受入れました。

7 就職援助事業（国の委託事業）

支援・交流センターに職業相談員

を配置し、帰国者二世等に対し職業指導や職業相談等を行いました。また、就職に役立つ知識や情報等をまとめた「就職ガイドンスブック」（日本語・中国語併記）を改定し、各都道府県労働局等へ配布しました。

8 教材の開発・出版事業

様々な年齢層や学習レベルの帰国者等のニーズに応えるために、「中国語を母語とする人のための医療用語・表現集」他、三つの日本語教材等の改訂、樺太帰国者向けの「ロシア語を母語とする人のための介護用語・表現集」の新規発行を行いました。

9 普及啓発及び広報事業

中国帰国者が日本社会で温かく迎え入れてもらうためには、中国残留邦人のことを知っていただくことが何より重要であるため、あらゆる機会を捉えて、中国残留邦人についての普及啓発事業を行っています。

機関紙「援護基金」84号を発行した他、HPを適時更新し情報発信に努めました。

寄 附 者 芳 名 録

ありがとうございました

(令和3年4月1日から令和4年3月31日までの分)

(敬称は省略させていただきます)

[企業・団体の部]

富士通エフサス労働組合	30,000	株式会社カタログハウス	50,000
山梨県日中平和友好会	10,000	佐倉平和のつどい 岩崎 茂	10,000
		東レ株式会社	50,000

[個人の部]

※個人情報保護の観点から個人寄付者名の公開は控えさせていただきます。

※個人情報保護の観点から個人寄付者名の公開は控えさせていただきます。

※個人情報保護の観点から個人寄付者名の公開は控えさせていただきます。

公益財団法人中国残留孤児援護基金 評議員及び役員名簿

評 議 員

河合 弘之 さくら共同法律事務所 弁護士
佐々木典夫 元社会福祉法人こどもの国協会 理事長
高尾 佳巳 元在中華人民共和国日本国大使館 一等書記官
中川 桂子 元神奈川県自立研修センター 就労相談員
本田 機先 元厚生省社会・援護局援護企画課中国孤児等対策室長
村川 浩一 東京福祉大学 大学院講師

(令和4年6月23日現在)

役 員

理事長 炭谷 茂 社会福祉法人 恩賜財団 済生会 理事長
常務理事 齋藤 恭一 元厚生省社会・援護局業務課長
理事 小林 悦夫 元中国残留孤児援護基金 常務理事
同 鶴 精三 元社会福祉法人特別区人事・厚生事務組合
社会福祉事業団 更生施設所長
監事 蒲生 七郎 元東京都福祉局 参事
同 森居 秀彰 森居総合法律事務所 弁護士

(常勤役員は、常務理事のみ)

(令和4年6月23日現在)

令和4年度中国残留邦人 集団一時帰国事業に向けて

援護基金では今年度も国の委託を受け中国残留邦人の集団一時帰国事業を計画しています。

令和2年度と令和3年度の二年間は、例年どおりの受入れ準備を進めておりましたが、新型コロナウイルス感染症拡大による影響により、海外渡航制限等を受け、残念ながら受入れ延期となりました。

今年令和4年度に入り、日本側ではようやく6月から国別状況により渡航制限を緩和する措置が実施されました。

そこで、一時帰国対象者の希望と、中国側の移動条件等を確認しながら、対象者それぞれの一時帰国実施に向け、関係各方面との調整をすすめていくこととなりました。

なお、通常の一時帰国は集団受入れが基本ですが、帰国希望者の個別状況に合わせて準備が整い次第、個別受入れも計画に加えてすすめていく予定です。

次号では、今年度待望の一時帰国実施のご報告ができることを、職員一同楽しみにしております。今後とも皆様のご支援とご協力をよろしくお願いたします。

令和4（2022）年度遺華日本人 人集体短期帰国事業

援護基金今年度も受国家委託の「遺華日本人集体短期帰国事業」正在筹划当中。

令和2（2020）年度和令和3（2021）年度の两年期间、像往年一样做正常的准备接待工作，很遗憾的是，由于受新冠病毒感染扩大的影响，海外旅行也受到限制，无奈这项接待工作也被迫延期了。

进入令和4（2022）年度，日本政府终于从6月份起，根据各国的国情开始采取放宽旅行限制的措施。

因此，在确认短期回国对象者的要求和中国方面的旅行条件等的同时，为对象者各自的短期回国付诸实施，正在与有关方面进行协调。

通常，基本上是接待集体短期回国根据希望回国者的个别情况，正着手做相应的准备，个别接待短期回国的计划也在其中。

基金全体职员非常期待，在下一期刊载今年度期待已久的短期回国的实施报告。也希望今后各位一如既往地继续提供支援和鼎力相助。请多关照。

一般財団法人 岡村育英会 奨学支援事業の閉幕

一般財団法人岡村育英会は、向学の志があり、特に経済的に恵まれない前途有益の学生にいくらかでも援助したいという趣旨により、昭和42年、文部省の設立許可で発足した財団です。以来、毎年、大学、専門学校、高等学校から推薦される奨学生に対し、奨学支援に尽力されてきました。

平成17年度からは、一定の条件を満たす中国残留孤児の子弟で、大学、専門学校等に在籍する者を、援護基金が岡村育英会に推薦する形で、一年間限定の奨学支援をしていただきました。

平成17年度から今年度（令和4年度）まで18年間にわたりご支援いただきましたが、今年度を最後に岡村育英会は解散することとなり、長きにわたるご支援も幕を閉じることとなりました。

この間、援護基金の就学資金貸与者等で最終学年次に在籍する者を中心に129人が奨学支援を受け、履修時間が多くアルバイトが困難な時期に支援を受けることで学業に専念することができました。

この場を借りまして、岡村育英会のこれまでの厚いご支援に対し、感謝を申し上げます。

一般財団法人 岡村育英会 奨学金支援事業の結末

一般財団法人岡村育英会、旨在为有求学愿望、特别是经济上有困难、前途光明的学生，提供尽可能多的援助。于昭和42（1967）年经文部省批准成立的基金会。自成立以来，每年都致力于为大学、专门学校和高中推荐的学生提供奖学金援助。

从平成17（2005）年度开始，通过援护基金向冈村奖学金财团推荐的方式，向符合一定条件，在大学、专门学校就读的遗华日本子女等，提供为期一年的奖学金援助。

从平成17（2005）年度到本年度（令和4（2022）年度）18年来，一直对我们给予了大力支援，本年度之后冈村育英会即将解散，长期以来的支援就此结束。

在此期间，以接受援护基金助学贷款并在最后学年就读的129名学生为主，在学业繁重兼职困难的时期，由于获得了冈村育英会的奖学金扶持，才有更多的时间能够专注于学业。

谨借此机会，对冈村育英会迄今给予的慷慨支援和大力协助，表示诚挚的感谢！

老後支援事業②要介護支援モデル研究事業 令和三年度介護関連活動状況調査の結果（概要）

はじめに

支援基金では介護関連資格取得援助を利用して介護資格を取得した者350人（初回調査平成25年以降の援助者）に対し介護関連業務への従事状況等を把握する目的でアンケート調査を実施しました。結果、一世から四世の計171人、約6割（59%）の回答が得られました。以下はその結果概要です。

なお、詳細はこれまでの関連調査と合わせてホームページに掲載します。

1 介護資格取得の時期 （資格取得援助の時期）

最近5年間に資格取得援助を受けた者が63%を占めています。

援助年度	人数	%
平成25年度	8	5%
平成26年度	28	16%
平成27年度	12	7%
平成28年度	16	9%
平成29年度	15	9%
平成30年度	16	9%
令和元年度	17	10%
令和2年度	27	16%
令和3年度	32	19%
計	171	100%

2 取得した資格

介護職員初任者研修、ヘルパー2級が多数を占めますが、実務者研修、介護福祉士、介護支援専門員（ケアマネージャー）等上位資格や、基金が助成していない他の資格を取得している方もいました。

取得資格	人数	%
1) 介護職員初任者研修、ヘルパー2級	128	75%
2) 実務者研修	12	7%
3) 介護福祉士	7	4%
4) その他	24	14%
計	171	100%

3 資格取得後の就労状況

	人数	%	人数	%
1) 現在介護の仕事に従事	75	44%	101	60%
2) 現在介護と他の仕事に従事	26	15%		
3) 今は介護の仕事に従事していない	31	18%	68	40%
4) 介護の仕事に従事したことがない、現時点で予定していない	37	22%		
計	169	100%	(無回答2)	

6割が現在何らかの形で介護の仕事に従事している一方、4割が過去に介護の仕事に従事したが現在は従事していない、または介護の仕事に従事したことがない、他の仕事に従事している等で現在する予定がないと答えました。

4 介護の仕事に従事している者について

①雇用形態

約半数（46%）が正規職員で、残り半数（54%）は非常勤やパートの職員でした。

②仕事の見つけ方

	人数	%
1) ハローワーク	9	9%
2) 民間紹介所	5	5%
3) インターネット、チラシ、雑誌等	13	13%
4) 友人、知人紹介	57	59%
5) その他	13	13%
計	97	100%

(無回答4)

	人数	%
1) 訪問系(介護、入浴、夜間型等)	58	50%
2) 施設系(特養、老健、療養型、サービス付き高齢者向け住宅)	13	11%
3) 通所系(デイサービス、リハビリ等)	26	23%
4) 小規模多機能系(訪問+通所+宿泊)	11	10%
5) ショートステイ(短期滞在)	2	2%
6) 認知症グループホーム	1	1%
7) その他	4	3%
計(複数回答あり)	115	100%

③ 事業所のサービス種類

「友人や知人の紹介」による場合が最も多く約6割(59%)。「その他」では(自分や家族が)介護事業所を開業が8件、(家族の)介護先が3件、介護教育機関が1件、無回答が1件でした。

	人数	%
1) 30 時間未満	16	16%
2) 30~50 時間	20	20%
3) 50~100 時間	26	26%
4) 100 時間以上	39	39%
計	101	100%

⑤ 1ヶ月の就労時間

	人数	%
1) 15分以内	32	33%
2) 30分以内	34	35%
3) 45分以内	12	12%
4) 1時間以内	12	12%
5) 1時間以上	7	7%
計	97	100%

④ 職場までの通勤時間
全体の約7割(68%)が30分以内でした。

「訪問系」が最も多く50%、「通所系」23%、「施設系」11%、「小規模多機能系」10%。「その他」には「病院(看護助手)」や「病院(介護、入浴、オムツ交換、検査搬送)」でした。

	人数	%
1) 1割未満	16	17%
2) 2~3割	20	21%
3) 3~5割	30	32%
4) 5~8割	16	17%
5) 8割以上	13	14%
計	95	100%

(無回答6)

⑦ 世帯収入中の介護収入割合
1割未満が17%、3割以下が38%を占めています。一方5割以上は31%です。

	人数	%
1) 5万円未満	13	13%
2) 5~10万円	21	21%
3) 10~20万円	40	40%
4) 20~30万円	22	22%
5) 30万以上	4	4%
計	100	100%

(無回答1)

⑥ 1ヶ月の平均月収
20万円以上が全体の約4分の1(26%)で、残り4分の3(74%)が20万円未満です。

100時間以上が最も多く約4割の39%でした。

⑨ 中国帰国者を担当して困ったこと
(1) 利用者の介護保険に対する理解不足で、サービス提供時に保険外
の要望が多い。
(2) 老人の心理面(気をもむ、やるせなさ、イライラ、発散)が、夫婦や子ども、親族間など多くの人々に影響し、その結果が介護現場にも影響する。

⑨ 中国帰国者を担当して困ったこと

約7割の66%に経験があります。また、「ある」の担当件数の合計は次のとおりです。
残留孤児(その配偶者含む) 502件
残留婦人(その配偶者含む) 80件
婦人二世(その配偶者含む) 145件

	人数	%
1) ない	29	30%
2) ないが、見聞きした	4	4%
3) ある	63	66%
計	96	100%

(無回答5)

⑧ 中国帰国者を担当した経験

(3) 利用者宅で物が見つからない時。どこに置き忘れたかはつきりせず、介護職員の自分が疑われるのではないかと不安になること。

5 介護関連の仕事に就いていない者について

① 介護の仕事をしていない、または、予定していない理由

	件数	%
1) 条件に合う事業所がない	5	6%
2) 他の仕事をしている	42	50%
3) 日本語や習慣に自信がない	11	13%
4) 言葉や習慣でトラブル	3	4%
5) 体力や健康の面で無理	8	10%
6) 事業所を見つける方法が分からない	3	4%
7) その他	12	14%
計(複数回答あり)	84	100%

64人回答(無回答4)

最も多かったのは、「他の仕事をしている」(半数)。

次に多い「その他」では
 (介護職では生活できない)
 (コロナの収束後従事したい)
 (難しい日本語が多くなければ従事する)
 (近所で10時から17時の職場があれば従事する)
 (妊娠のため)
 (自宅で介護中)
 (学習中)
 (別の仕事の内定が出た)
 との回答でした。

また、「条件に合う事業所がない」では
 (給料が安く仕事しやすい環境が不足)
 (12時以後で家から通勤1時間以内)
 (子どもの都合上近所で10時から17時の職場)
 などの回答がありました。

② 今後、介護の仕事をする意志
 まったく意志のない人はわずかであり、何らかの状況変化やタイミングにより介護の仕事に就きたいと考えている人が多いようです。

「その他」は
 (今はまだ考えられない)
 (腰痛)
 (医療通訳で忙しい)
 (病が回復しつつあるので今後可能な限り従事したい)
 (時間ができれば従事する)
 (日本人利用者の介護希望。帰国者2世代との人間関係が苦手)

(退職後始めたい)
 (持病)
 (介護職に従事したが職場での人間関係と日本語が不得手で転職)
 (高齢者の相談で介護資格を活かしている)
 などでした。

	件数	%
1) 条件に合う事業所が見つければやる	31	33%
2) 日本語や習慣に自信が持てればやる	9	10%
3) 帰国者の同僚や介護サービス利用者がいればやる	13	14%
4) 今の仕事が終われば介護の仕事をする	23	24%
5) 介護の仕事は今はやる予定はない	7	7%
6) その他	11	12%
計(複数回答あり)	94	100%

67人回答(無回答1)

6 その他

① 帰国者支援活動

171人中71人(42%)が帰国者に関係する他の支援活動の経験があり、具体的な活動内容は以下のとおりです。

	人数	%
1) 自立指導員	9	13%
2) 自立支援通訳	13	18%
3) 医療・介護通訳	17	24%
4) 身元引受人	2	3%
5) ボランティア団体	7	10%
6) 中国帰国者支援・交流センター	9	13%
7) その他	14	20%
計(複数回答あり)	71	100%

「医療・介護通訳」では
 (医療通訳)
 (ボランティアで医療通訳)
 (市・県の派遣医療通訳)
 (病院引率)
 (介護通訳)
 (介護保険認定で通訳)

〔町内の児童民生員で国際結婚家族の通訳〕

〔中国帰国者支援・交流センター〕

〔語りかけボランティア〕
〔帰国者相談員研修会等の参加〕
〔新年会等の行事参加〕

〔その他〕では
〔親戚や友人、友人の親戚達の通訳〕
〔日本語学校職員留学生担当〕
〔市役所派遣市立小学校中国語教師〕
〔外国人高齢者支援全般〕

②「中国語の対応が可能な介護事業所」の情報について

	人数	%
1) 希望する	57	37%
2) 希望しない	37	24%
3) どちらでもよい	62	40%
計	156	100%

(無回答 15)

厚生労働省が公表している「中国語の対応が可能な介護事業所」(毎年9月末更新)について、回答者156人中57人が情報提供を「希望する」、62人が「どちらでもよい」と回答。合わせると119人(約8割、77%)が介護に関する求職等の参考として情報に関心を寄せています。

③機関紙等の送付希望について

	人数	%
1) 希望する	74	47%
2) 希望しない	22	14%
3) どちらでもよい	48	31%
4) 送付してもらっている	13	8%
計	157	100%

(無回答 14)

介護等に役立てるため、74人が「希望する」、48人が「どちらでもよい」、13人が「送付してもらっている」との回答でした。

④帰国者の介護に関する意見

- (1) 将来的に帰国者が宿泊できる施設を創設してもらいたい。
- (2) 日本語を学習せず仕事に従事したため、一人で救急対応ができず、救急車を呼ぶための確かな状況説明ができなかった。パソコンも不得手で上司から日本語がもつと上達すれば完璧なのと言われたのが最も落ち込んだこと。
- (3) 自分と同じ境遇で話の合う帰国者の仲間と楽しく晩年を送れるいい環境と思う。帰国者が中国語対応できる介護サービスの詳しい情報を紹介できる機会があるといい。
- (4) 以前から帰国者の介護に役に立ちたいと思っていたがなかなか機会がなくどうしたらいいか悩んでいる。自分の周りに相談できる人がいないので、情報提供してもらいたい。
- (5) コロナ禍が加速させた介護危機、求められるのは抜本的な処遇改善。現在介護現場は医療問題に隠れ、社会から危機的実態が見逃されていると考える。介護の2025年問題が注目され、帰国者一世二世にも当てはまる問題で「地域包括ケアシステム」といった在宅介護を基軸とした介護問題に対応しておかなければならない。
- (6) 一世は全般的に後期高齢者となり、平均年齢が80才を超えている現状から考えると、これまでの介護という問題だけではなく、要介護になった先のひとつとして、終末期ケアや看取りの問題にも目を向けたいという意見。

(7) 介護職員の求職情報、帰国者介護施設の求人情報を相互提供してもらいたい。

(8) 中日対訳の介護分野の資料があれば、今後の介護職に役立てるため学習したい。

(9) 多くの方が言葉の壁があり、普通の入居者や介護職員とのコミュニケーションが取れないのが現実。帰国者の中には言葉が通じないという理由で施設への入居やデイサービス利用を拒む者もある。高齢者施設で中国語ができる職員が在職していればこのような問題も解決できると思うが現実は大変難しく、二世に介護職員研修が勉強できるように声をかけている。

(10) 日本語があまり流暢でない帰国者は、中国では日本人、日本では中国人と言われ、精神面で苦労してきたので、生活面だけでなく精神面でもより配慮した支援を希望する。

(11) 中国語であれば仕事ができるが、意思の疎通が一番の悩み。真剣に日本語の学習をしたい。

調査を終えて

八年ぶりの調査から帰国者介護に携わる皆さんの活躍の様子と貴重なご意見を伺うことができました。これらを参考に今後の援護基金の事業実施と情報発信に役立ててまいります。

ご協力ありがとうございました。

晚年支援事业 ②要介护支援模式研究事业 令和三年度 关于介护工作现状的调查结果(概要)

前言

援护基金以掌握取得介护资格后，是否从事与介护相关的业务状况为目的，对利用介护相关资格取得援助而取得介护资格者共350人(初回调查之后既平成25(2013)年以后的援助者)实施了问卷调查。最终收到了从一代到四代共计171份约六成(59%)的回答。以下是调查结果的概要。另外，有关详情将与以前的相关调查一起，将公布在本基金的网页上。

1 介护资格取得时期(资格取得援助的时期)
近5年内接受资格取得援助者，占63%。

援助年度	人数	%
平成25年度(2013)	8	5%
平成26年度(2014)	28	16%
平成27年度(2015)	12	7%
平成28年度(2016)	16	9%
平成29年度(2017)	15	9%
平成30年度(2018)	16	9%
令和元年度(2019)	17	10%
令和2年度(2020)	27	16%
令和3年度(2021)	32	19%
合计	171	100%

2 取得的资格

介护职员初任者研修、二级护理人员占大多数，此外还有实务者研修、介护福祉士、介护支援专门员(ケアマネージャー)等难度较大的资格，有的人还取得了不属于援护基金援助范围的其它资格。

取得资格	人数	%
1) 介护职员初任者研修，2级护理人员	128	75%
2) 介护职员实务者研修	12	7%
3) 介护福祉士	7	4%
4) 其它	24	14%
合计	171	100%

3 资格取得后的就业状况

	人数	%	人数	%
1) 资格取得后，现在专门从事护理的工作	75	44%	101	60%
2) 资格取得后，一边从事护理工作，一边兼职其它的工作	26	15%		
3) 资格取得后，以前从事过护理工作，现在没有从事护理工作	31	18%	168	40%
4) 虽然取得了资格，没有从事过护理工作，或者现在还不打算从事护理工作	37	22%		
合计	169	100%	(未回答者2)	

4 从事护理工作的人员

现在以各种形式从事护理工作的人员占六成，以前从事过护理工作但现在没有；没有从事过护理工作，或者现在还不打算从事护理工作的占四成。

① 雇用形式

大约一半(46%)是正式工，剩余的一半(54%)是临时工或短时间劳动。

② 找工作的方法

	人数	%
1) 公共职业安定所(公共机关)	9	9%
2) 民间就业介绍所(民营企业)	5	5%
3) 因特网、招聘广告、杂志等	13	13%
4) 通过朋友、熟人的介绍	57	59%
5) 其它情况	13	13%
合计	97	100%

(未回答者4)

	人数	%
1) 访问型(介护、入浴、夜间型等)	58	50%
2) 设施型(特养、老健、疗养型、附带服务的高龄者住宅)	13	11%
3) 通所型(日间服务、康复训练等)	26	23%
4) 小规模多功能型(访问+通所+住宿)	11	10%
5) 短期住宿(短期滞在)	2	2%
6) 认知症对应的集体生活型托老院	1	1%
7) 其它情况	4	3%
合计(重复回答)	115	100%

③ 事业所的服务类型
 通过「朋友或者熟人的介绍」等最多,大约占六成(59%)。「其它」(自己或家人等)开设了介护事业所8件;通过家人利用的介护事业所3件;通过介护教育机关1件;无回答1件。

	人数	%
1) 不满30小时	16	16%
2) 30-50小时	20	20%
3) 50-100小时	26	26%
4) 100小时以上	39	39%
合计	101	100%

⑤ 一个月的工作时间

	人数	%
1) 15分钟以内	32	33%
2) 30分钟以内	34	35%
3) 45分钟以内	12	12%
4) 1个小时以内	12	12%
5) 1个小时以上	7	7%
合计	97	100%

(未回答者4)

④ 距离职场的通勤时间
 30分以内最多,占总人数的七成(68%)。

	人数	%
1) 不到10%	16	17%
2) 20~30%	20	21%
3) 30~50%	30	32%
4) 50~80%	16	17%
5) 80%以上	13	14%
合计	95	100%

(未回答者6)

⑦ 护理工作收入在家庭中所占比例
 不到一成的占17%,不足三成的约38%。另一方面,超过五成以上的占31%。

	人数	%
1) 不满5万日元	13	13%
2) 5-10万日元	21	21%
3) 10-20万日元	40	40%
4) 20-30万日元	22	22%
5) 30万日元以上	4	4%
合计	100	100%

(未回答者1)

⑥ 一个月平均收入
 20万日元以上约占总体的四分之一(26%),其余四分之三(74%)低于20万日元。
 100小时以上的最多,约四成(39%)。

⑨ 担当中国归国者护理工作,感到为难的事情
 (1) 由于利用者缺乏对介护保险的理解,在提供服务时,许多需求都在保险服务之外。
 (2) 老人的情绪(焦虑、无奈、烦躁、宣泄),使夫妇、子女、亲属间等许多人受到影响。其结果导致现场的工作也受到影响了。

此外,担当件数合计如下
 约七成66%的人有担当经验。
 遗华孤儿(包括配偶) 502件
 遗华妇女(包括配偶) 80件
 遗华妇女的一代(包括配偶) 145件

	人数	%
1) 没有	29	30%
2) 没有,但是见到过、听说过	4	4%
3) 有	63	66%
合计	96	100%

(未回答者5)

⑧ 有无护理中国归国者的经验

(3) 利用者家里的东西找不到时，最为难的是说不清楚在哪里？忘了还是丢了？担心被人家怀疑。

5 没有从事护理工作的人员

① 没有从事过护理工作或不打算从事护理工作的理由

	件数	%
1) 没有符合条件的事业所	5	6%
2) 正在从事其它的工作	42	50%
3) 对日语或习惯没有自信	11	13%
4) 因语言、习惯、人际关系，发生过纠纷	3	4%
5) 体力、健康上的问题无法从事	8	10%
6) 如何找到事业所，方法不清楚	3	4%
7) 其它情况	12	14%
合计 (重复回答)	84	100%

回答者 64 人 (未回答者 4)

回答最多的是「正在从事其它工作」(半数)。

其次是「其它」

(从事护理工作的收入，不足以维持日常生活的开支)
(等疫情平稳，想去工作)

(如果不太使用难度较大的日语，可以考虑从事工作)

(如果有离家近工作时间10点到17点的工作就做)

(因为怀孕了)

(正在护理家人)

(正在学习)

(找到了其它工作)

(还有、「没有符合条件的事业所」)

(工资低且周围的工作环境不好)

(12点以后通勤时间在1小时以内)

(需要照顾孩子，想在家附近找10点开始到17点的工作)

等回答。

② 今后有无从事护理工作的意愿

只有极少数完全没有从事工作的意愿，大多数人希望根据情况的变化或时机，打算从事护理工作。

「其它」

(现在还没考虑)

(腰痛)

(现在在做医疗翻译，很忙)

(疾病正在回复中，今后可能的话尽量从事护理工作)

(如果时间允许的话，打算去做)

(想做针对日本人的介护工作。归国者二代关系太复杂)

(身体原因)

(以前从事过护理工作，因为日语不好而受到其它同事的排挤而辞职了)

(负责高龄者的咨询业务，介护资格有了用武之地) 等。

	件数	%
1) 如果找到符合条件的事业所的话 可以做	31	33%
2) 日语或习惯有了自信的话 可以做	9	10%
3) 有中国归国者的同事、介护服务利用者的话 可以做	13	14%
4) 现在的工作结束的话，可以做护理工作	23	24%
5) 现在还不打算从事护理工作	7	7%
6) 其它情况	11	12%
合计 (重复回答)	94	100%

回答者 67 人 (未回答者 1)

6 其它

① 归国者的支援活动

171 人中有 71 人 (42%) 有过与归国者相关的支援活动经验，具体活动内容如下

「医疗·介护翻译」方面
(医疗翻译)

(医疗翻译的志愿者)

(市、县派遣的医疗翻译)

(医院的引领)

(介护翻译)

(做介护保险认定时的翻译)

(作为社区儿童民生员，为国际婚姻的家庭翻译)

「中国归国者·交流中心」举办的
(交谈志愿者)

(参加归国者支援咨询员培训研修会等)

(参加新年会等活动)

「其它」方面
(为亲戚、朋友以及朋友的亲戚做翻译)

(作为日语学校职员，负责留学生事宜)

(受市役所派遣市立小学校中文教师)

(面向外国人高龄者的所有支援业务)

	人数	%
1) 自立指导员	9	13%
2) 自立支援翻译	13	18%
3) 医疗·介护翻译	17	24%
4) 身份担保人	2	3%
5) 民间义务团体	7	10%
6) 中国归国者支援·交流中心	9	13%
7) 其它情况	14	20%
合计 (重复回答)	71	100%

② 是否希望提供「对应中国语的介护事业所一览」的信息

	人数	%
1) 希望	57	37%
2) 不希望	37	24%
3) 都可以	62	40%
合计	156	100%

(無回答者 15)

对于厚生劳动省公布的「可以对应中国语的介护事业所一览」(每年9月末更新), 156人回答者中有57人表示「希望」得到, 62人回答都可以。共有119人(約八成77%), 表示作为护理相关的求职参考, 对信息感兴趣。

③ 是否希望收到基金发送的机关刊物

	人数	%
1) 希望	74	47%
2) 不希望	22	14%
3) 都可以	48	31%
4) 已经在收取	13	8%
合计	157	100%

(無回答者 14)

为了对护理有所帮助, 74人回答「希望收到」, 48人回答「都可以」, 13人回答「已经在收取」。

④ 对归国者护理方面的意见

(1) 希望将来开设能够为归国者提供住宿的设施。

(2) 由于没有参加日语培训, 在工作中发生紧急情况时, 不能独立叫救护车, 不能准确地讲清楚事情发生的经过, 也不会使用电脑等, 这是工作中最大的烦恼, 领导也经常说, 你的日语要再好一点的话, 工作就能做到百分之百了。这也是我最大的遗憾。

(3) 要是能跟自己一样遭遇的归国者一起说说话聊聊天, 我想这样会让大度过过一个幸福的晚年。要是能为归国者提供中国语介护所的信息的话, 就更好了。

(4) 以前想为归国者介护出一份力, 因为一直没有机会而感到烦恼, 自己周边也没有可以提供这方面工作的人, 希望能够提供这方面的信息。

(5) 由于新冠疫情加速了介护危机, 需要彻底改善待遇的问题也迫在眉睫。目前, 护理现场被医疗问题所掩盖, 我认为社会忽视了近似危机的现实。2025年的介护问题备受关注, 归国者一代二代将面临一地域包括护理体制「的问题, 也就是以居家介护为主轴的介护问题, 需要事先做好应对。(6) 介于「一代归国者总体步入后期高龄者的行列, 平均年龄80岁以上的现状考量, 不仅要关注以前的护理问题,

还要关注需要护理之后临终关怀及守护等问题。

(7) 希望能提供介护职员的求职信息, 以及归国者介护设施的招聘信息。

(8) 如果有日中翻译领域的书籍的话, 想学习一下, 会对今后的介护工作有所帮助。

(9) 大多数人都有语言障碍, 因此存在着与不是归国者的一般入住者和护理人员无法沟通的实际情况, 一些归国者, 因语言不通的理由, 拒绝入住护理设施或放弃利用日间服务, 我认为如果有一个会说中文的护理职员, 在老年人设施工作, 这些问题也可以解决, 但现实很难, 我建议第二代能够参加介护职员研修培训。

(10) 对日语不是很流利的归国者来说, 在中国被说是日本人, 在日本被说是中国人。因为在精神方面很苦恼, 不仅生活方面, 精神方面也希望能得到支援。

(11) 要是用汉语的话, 工作没问题, 因日语不能好好地沟通而感到烦恼。想认真学习日语。

调查结束

从时隔八年实施的问卷调查中, 我们感到从事归国者护理工作的各位活跃在各自的职场, 并为我们提供了宝贵的意见。

以此为参考, 今后援护基金在事业实施及信息传播等方面, 必将发挥重要的作用。

再次感谢大家的协助!

令和4年度 出版事業
 帰国者の介護支援に役立つ用語・表現集のご案内

援護基金では、介護現場での支援に携わる皆様にも役立つ出版物を刊行しているのご紹介します。

《中国語を母語とする人の為の介護用語・表現集》日中対訳 上下巻

介護職を目指す方の他、ご家族の介護に当たる方やその通訳をされる方、どちらの立場からも利用していただけるものです。

帰国者の高齢化に伴い、介護サービス等を利用する機会が増加しています。

帰国者の皆様、関係する行政機関や支援者の皆様、介護サービス事業者等の皆様方に、ぜひご利用いただきたいと思っております。



上巻3版 B5サイズ269頁
(税込2,640円)

上巻では介護保険制度の概要とサービス利用のしかたや高齢者の心身の状態についての説明や用語を取り上げています。



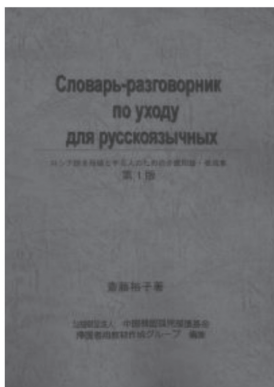
下巻2版 B5サイズ462頁
(税込3,208円)

下巻では、具体的な介護場面を網羅的に取り上げるとともに、介護現場で遭遇する日本語の中で、中国語を母語とする人にとって理解や使用の難しい語句についての語彙・文法知識等も紹介しています。

同じくロシア語の用語・表現集もご用意しています。

《ロシア語を母語とする人のための介護用語・表現集》日露対訳初版

中国語版(上巻)の内容をもとに、4月より刊行しております。こちらもぜひご活用ください。



A4サイズ243頁
(税込2,640円)

また、医療用語・表現集につきましても、ご案内します。

《中国語を母語とする人のための医療用語・表現集》日中対訳5版

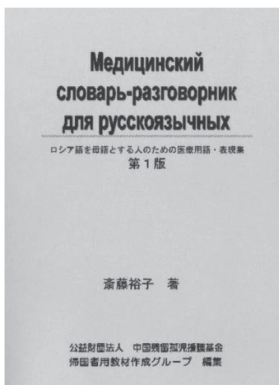


B5サイズ448頁
(税込2,750円)

医療サービスを受ける際に出てくる用語や表現をまとめた資料集です。日中対訳で、11種類の問診票、3種類の索引付き。第5版で内容が追加され、用語も増えて充実したもので、これまでも増して役立つ内容となっています。

同じくロシア語の医療用語・表現集もご用意しています。

《ロシア語を母語とする人のための介護用語・表現集》日露対訳初版



A4サイズ402頁
(税込2,640円)

中国語版(3版)の内容をもとに刊行しました。こちらもぜひご活用ください。

ご購入を希望される方は、公益財団法人中国残留孤児援護基金までお問い合わせください。

ご購入額が5,500円(税込)以上の場合送料は無料になります。

この他にも医療、介護に関する日本語学習教材や、様々な日本語学習教材等を販売しております。

ホームページで目次や見本頁等、詳しくご案内しておりますので、ぜひご覧ください。

① 教材一覧

<https://www.engokikin.or.jp/publication/textbook1/tabid/104/Default.aspx>



② 注文のごとく

<https://www.engokikin.or.jp/publication/order/tabid/93/Default.aspx>



皆様からのご連絡をお待ちしております。

※一部の書籍(ロシア語版等)につきましては、在庫を持っていないため、ご入金を確認でき次第、製本しますのでご入金完了日からお届けまでに十日〜二週間ほど要する場合があります(尚、コロナ禍の影響で二週間以上要する場合がありますので、ご了承ください)。

せながらゆっくりと話を聞いています。また、専門家を講師として一世世代に向けて、老年期の身体や心の変化、医師とのコミュニケーションのとりかた、栄養、運動の大切さなどについての講座も開催しました。

一世ばかりでなく、二世にも高齢化の波が押し寄せています。来日後仕事や子育てで忙殺さ

れてきた日々が過ぎ、ふと立ち止まった時に中国では日本人の子ども、日本に帰国してからは中国人といわれて辛い思いをしたことがトラウマとなってメンタルに不調をきたす人もいます。

今後も専門家と共に、帰国者への理解を深めながら、よりよい対応に努めていきたいと思えます。(Y)

遠隔学習支援事業の現場より

— 『ロシア語を母語とする人のための介護用語・表現集』ご紹介 —

今号では、首都圏センターの遠隔学習課程『樺太帰国者向け 生活場面日本語「介護」コース』の副教材として令和4年3月末より加わった『ロシア語を母語とする人のための介護用語・表現集』(公財)中国残留孤児援護基金発行)をご紹介します。

同用語集は『中国語を母語とする人のための介護用語・表現集』(斎藤裕子著)上巻を底本としており、一部の資料やコミュニケーションボード(イラスト集)、中国文化に関する解説以外の内容は中国語版と同じ内容が網羅されています。

漢字1字に多くの情報を含む中国語と音標文字のロシア語とでは1語の文字数に大きな差がありますが、中露の受講者が同じクラスで学ぶ場合にも使えるように同じ頁構成に揃えてあります。もちろん漢字は全てルビ付きです。

介護職を目指す方、家族の介護に当たる方及びその通訳をされる方、どの立場からも理解を深めていただけるように、介護保険制度の概要とサービス申請の流れ、また実際の要介護認定書、利用できる介護サービスの種類等が日露対訳でわかりやすく図示されています。

また、索引は日露、露日と意味を併記しているので、「指差し会話帳」的な使い方も可能です。

遠隔学習課程の「介護」コースにこの用語集が加わったことで、介護保険制度についてより深く学んでいただけるようになったと思います。

なお、主教材の『新・日本の生活とことば-5 介護』共々、援護基金でご購入いただけます。(T)

Словарь-разговорник по уходу для русскоязычных

ロシア語を母語とする人のための介護用語・表現集
第1版

斎藤裕子著

〈介護用語集の一頁より〉

Глава 2 Система страхования по уходу

(От подачи заявления в систему страхования по уходу до уведомления о решении)
(介護保険申請から認定結果通知まで)

С 40 лет уплаты страховых взносов 40歳から保険料負担

Лица в возрасте 65 лет и старше (застрахованные лица 1-й группы)
65歳以上 (第1号被保険者)

Лица в возрасте 40—64 лет (застрахованные лица 2-й группы)
40~64歳 (第2号被保険者)

Когда возникла потребность в уходе
介護が必要となったとき

① Подача заявления в окно приема муниципалитета
市役所 市の窓口へ申請

② Обследование для установления права на получение услуг (с приходом инспектора на дом)
認定調査 (調査員が自宅訪問)

Результаты обследования
認定調査の結果

+ ③ Письменное заключение лечащего врача
主治医の意見書

Первичное решение (выносится компьютером)
一次判定 (コンピューターによる)

④ Вторичное решение (временно-квалификационной комиссией)
二次判定 (介護認定審査会)

⑤ Уведомление о решении
認定結果通知

Не установлено (самостоятелен)
認定なし (自立)

Помощь 1, 2
要支援 1, 2

Уход 1—5
要介護 1~5

⑥ Составление плана ухода и пользование услугами
ケアプラン作成・サービスの利用

В течение рабочей недели — то, что выносится соответствующим отделением. От даты заявления до уведомления о решении проходит около месяца.
点検日は平日のほうでなければ、申請から結果通知まで1か月くらいかかる

編集：中国帰国者支援・交流センター
 〒110-0015 東京都台東区東上野1-2-13 カーニープレイス新御徒町7階
 TEL 03-5807-3171 FAX 03-5807-3174
 E-mail : info@sien-center.or.jp URL : https://www.sien-center.or.jp/

相談事業の現場より

—中国帰国者等のメンタルヘルスを専門家と共に考える—

帰国者の皆さんとお話をしていて、高齢になるにつれ「あれ？」と思う言動—例えば、以前は穏やかだった人がちょっとしたことで怒りっぽくなったり、「眠れない」、「死にたい」、「誰かに監視されている」と訴えてきたりということも多くなってきました。相談員としてどう対応したらよいかわからず、行き詰ってしまうこともありました。

上記のような訴えが増えてきたことから首都圏センターでは、2017年の支援・相談員研修会で「中国残留日本人の体験と、心的外傷後ストレス障害(PTSD)を考える」と題して沖縄戦や福島原発事故によるPTSDの治療に詳しい精神科の医師に講師をお願いしました。

翌年、この時の講師に自身や家族が中国引揚の体験を持つ専門家も加わり、メンタル面に問題を抱える帰国者の相談に対して、センターとしてどのように対応していけばよいかのコンサルテーション(対人援助場面で専門家や現場の支援者などが連携して対応を考えること)の場を設けることになりました。

残留邦人の方から体験を聞くと、状況もさまざま、年齢によって記憶していることもまちまちですが、敗戦時の混乱や実の親と別れて養父母に引き取られたときの寂しさ、温かい養父母の元で何不自由なく育った人がいる一方、幼少時から放牧や農作業、水汲みなどの重労働を課せられた人もいます。「小日本」「日本鬼子」と呼ばれていじめられた記憶、自分が日本人だ



〈一世向け講演会の様子〉

ということを知らされたときのショック、中国での様々な社会運動の中での葛藤、肉親捜しのときの期待と落胆、来日後日本語がなかなか身につかず、思うような仕事に就けなかった辛さ。これまでに何度となく心の傷や長く消えない不安を抱えて生きてこられたことがわかります。このような体験の過程で負った複数のトラウマが雪だるまのように膨らんでいきPTSD(心的外傷ストレス)となっていく。若いときには日常に埋もれていたPTSDが高齢になって出ることもあると言います。帰国者の皆さんの人生背景を考えると大いにあり得ることです。



〈オンラインによるコンサルテーション〉

これまでのコンサルテーションでは、地域の精神保健福祉センターとの連携や、話の聞き方やねぎらいの言葉のかけ方、精神疾患と認知症との見分け方など、多くのスキルと知識を得ることができました。帰国者の言動に戸惑う場面でも、焦らずに、その人の生きてきた過程に思いを馳



ご寄附のお願い

当財団では国の委託事業のほか、孤児を育てていただいた中国の養父母への扶養費送金、孤児が訪中し養父母をお見舞いするお見舞い訪中事業、就学援助、団体助成後援事業等さまざまな事業を行っております。これらの事業を推進するにあたっては、皆様から寄せられた浄財を充当しており、多くのご支援が必要です。当財団事業にご理解をいただきご寄附をお寄せくださいますようお願い申し上げます。

寄附金の送金方法（一般寄附）

(1) 郵便局をご利用される場合

郵便振替口座番号 00190-0-64863

加入者氏名 公益財団法人 中国残留孤児援護基金

(2) 取扱銀行をご利用される場合（一般寄附）

振込先名義 公益財団法人 中国残留孤児援護基金

みずほ銀行 (新橋支店 普通預金 No. 778162)

三井住友銀行 (東京公務部 普通預金 No. 22640)

三菱UFJ銀行 (本店 普通預金 No. 7644778)

りそな銀行 (東京公務部 普通預金 No. 6102827)

りそな銀行は、令和5年2月までお振込が可能です。

当財団は内閣府から「公益財団法人」の認定を受け、個人・団体・企業からの寄附金に対し、法令に基づき減免税措置が行われます。

※ご注意

個人情報保護の観点より、銀行に寄付金をお振込いただいた方のご連絡先等を銀行から当財団に教えていただけないため、領収書、お礼状をお届けできない事態が生じております。

銀行に寄付金をお振込いただいた方で、長期間領収書が届いていない方は、お手数ですが中国残留孤児援護基金事務局まで、ご連絡先等をお知らせ下さい。

寄付者芳名録にお名前の掲載を希望されない方及び機関紙の送付を希望されない方は、援護基金事務局 電話 03-6667-0552 までその旨ご連絡をお願い致します。

『援護基金』第85号 令和4年9月5日発行

編集・発行 公益財団法人 **中国残留孤児援護基金**

〒103-0002 東京都中央区日本橋馬喰町1丁目6番8号

Imas Works Bakurocho 4階

電話 03-6667-0552

FAX 03-6667-0553

<https://www.engokikin.or.jp/>